

## 第8次中期計画承認の件

次ページのとおり、  
第8次中期計画(2021年～2023年)を提案いたします。

## 【2030ビジョンにおける第8次中期計画の位置づけ】

第8次中期計画は、2030年ビジョンを実現するための、最初の3年間の目標です。総代会議での意見交換に基づき、その具体的な戦略・政策・取り組み・計画について提案します。

2030年ビジョンは、当組合の理念の実現のために、2030年に到達することをめざす目標として第21回通常総代会で承認いただきました。

行政機関への届出の際、訂正を求められた場合議決の本旨を変えない字句の訂正等は理事会に一任願います。

# パルシステム神奈川 第8次中期計画

テーマ「共感と信頼でつながる、持続可能な地域社会をつくります」

## 1. 事業(供給、共済、電力)

**食の安全安心を基本に、社会の変化に順応し、組合員一人ひとりに必要とされるパルシステムとなります。**

組合員の暮らしと地域課題解決のためにさまざまな企業や団体と連携し、組合員に寄り添った新たな事業施策をすすめます。また、人や環境・社会に配慮した商品を選ぶことでエシカルな消費社会をめざします。

## 2. 組合員活動

**つながりのある地域社会をめざして、多様な新しい組合員活動を構築します。**

これまでの活動をいかしながら、多様な人が参画できる環境を整えます。また、商品を中心に、事業と活動が連携し、地域の課題解決や「生きる力」につながる組合員活動をすすめます。

## 3. 食と農

**産直・地産地消を通じて、新たな交流の形にチャレンジし、作り手との信頼関係を深めます。**

生産地や商品の背景を組合員と役職員が理解を深めることで、感動と商品利用につなげ、日本の「農」や地域の活性化を図ります。次世代を担う子どもたちが生産地や商品を体感(つくる・たべる・話す)し考える機会や、組合員が作り手を身近に感じられる交流方法を増やします。

## 4. 暮らし・福祉

**組合員や地域の人々が主体となった「共助」の仕組みづくりに向け取り組みます。**

事業と活動をさらに拡大、充実を図り、誰もが安心してらせる地域づくりに貢献します。一人ひとりが持っている思いや可能性を集め、一步踏み出せる場づくりに取り組みます。

## 5. 環境

**環境活動(3R、再エネ普及、環境保全)を継続し環境配慮型社会へと転換するための意識を高め、自ら行動できる活動とします。**

環境課題を自分の危機として「考え」「行動」できるよう、未来を担う子どもたちや組合員の視点でわかりやすく伝え、暮らしの中で実践できる取り組みをすすめます。

## 6. 平和

**幅広い世代が参加・参画しやすい場をつくり、戦争や核兵器、貧困や差別などのない平和な社会をめざします。**

WEBなど新たな手法も取り入れ、子どもたちをはじめ、幅広い世代が平和や国際課題について関心を持てる学びや体験のできる場をつくります。地域団体や他の協同組合と連携し、社会課題に取り組みます。

## 7. 組織運営

**社会の変化に対応した組織と働き方をつくり、より地域に根差した運営をめざします。**

変化する社会に対応し、柔軟性のある新しい組織運営の基盤をつくります。共感を大切にし、ともに学び、多様性が尊重され人材育成と職場環境づくりに取り組みます。災害や感染症など、さまざまなリスクに耐えうる新たな体制と財務基盤を構築します。

## 第8次中期計画<基調・重点>

□第8次中期計画（2021年度～2023年度）

2030年ビジョンを実現するための、最初の3年間の目標です。

テーマは、「共感と信頼でつながる、持続可能な地域社会をつくります」の実現に向けて取り組みます。

- 1) 2020年、私たちは世界規模での新型コロナウイルスと自然災害など想像を超える事態に見舞われています。  
経済活動は大きく落ち込み、失業や収入の減少などで貧困や格差がさらに広がっています。元に戻るためには数年間かかるといわれている一方で、これまでのくらしに戻ることはなく、新しい関係づくりや経済活動への変革が求められるなか、新しいくらし方の模索が始まっています。
- 2) 重ねて、私たちの経済活動の影響によって、気候変動・大規模自然災害の発生やマイクロプラスチックの海洋汚染、地球環境は悪化の一途をたどっており、待ったなしの状況となっています。日本では、この100年で1℃以上気温が上昇し、降水量の増加も観測されています。ここ数年で、大雨の頻度の増加、農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスクの増加など、気候変動の影響が全国各地で起きており、長期にわたって被害が拡大する恐れがあります。
- 3) また、コロナ禍によって、人・モノ・カネのグローバル化の転換期が生じているともいわれています。行き過ぎたグローバル化の反動から大国の自国優先主義やポピュリズムが広がっています。社会や地域のさまざまな課題、身近な課題は、自分たち（自国・自組織・個人など）だけでは解決できないことが明確になり、社会の構造を変えないと解決できないところまできています。

このような時代に生きる私たちは、未来を担う子どもたちへ何を残していくのでしょうか。

グローバル化やIT技術などの進化によって、人類はさまざまな物が簡単に手に入る便利なくらしを手に入れました。それは、一見、豊かになったように見えますが、その代償として、気候変動、海洋汚染、自然災害など地球環境に影響を及ぼしてきました。

これからは、環境にやさしく、災害に強く、助け合える・支え合える距離感でくらししていくことができる地域づくり、ともに生きるための新しいつながりづくりが重要になります。

これらの問題の解決を次世代の子どもたちに先送りするのではなく、今、私たちにできることを、2030年ビジョンで掲げた4つのめざす姿（食と農、くらし・福祉、環境、平和）に沿って、着実に取り組みます。

「産直と環境のバルシステム」として、食と農を中心に人と自然が共生できる豊かな地域を創っていくために、SDGsが掲げる2030年までに達成させる持続可能な開発目標を大切に、「誰一人取り残さない」社会をとおして、バルシステムの仲間を増やし、バルシステムの価値をさらに向上させていきます。

2020年から2021年にかけての大きな動き

- ・世界が脱炭素社会への転換に動き出しました。日本も遅ればせながら2050年にCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを宣言しましたが、これには原子力発電も含まれていることから、自然エネルギー100%に舵を切っていくことが重要です。
- ・核兵器自体を違法とする初の国際条約「核兵器禁止条約」が50カ国の批准により発効されました。「被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます」を主旨とした「核兵器のない世界の実現に向けて！ヒバクシャ国際署名」では、全体で1,260万筆、バルシステム神奈川では114,692筆の署名を集めました。日本は、世界で唯一の被爆国でありながら、この条約に参加をしないとしています。核兵器の恐ろしさを経験した国として、核兵器のない世界へ向けてリーダーシップを発揮していく責任と義務があります。
- ・東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から10年の節目の年です。事故は終わっていません。福島県をはじめ、元のくらしを取り戻せていない人たちが大勢います。

## 3年後（2023年のめざす姿）の推進イメージの例として

※3年後（2023年）のめざす姿として、下記の推進イメージも含め取り組みます。

### 1. 供給事業、共済事業、電力事業

- 新型コロナウイルス感染症に関する影響への柔軟な対応と供給体制の整備をすすめます。
- オンラインを活用した新たな発信方法を増やし、商品の良さを伝えます。
- 『ステーションパル』など、新たな配送拠点や配送方法の検討をすすめます。
- 環境に配慮した商品開発をすすめるとともに、その背景や思いを組合員にしっかりと伝えることに努めます。

### 2. 組合員活動

- オンラインを活用し、気軽に参加・活動できる環境をつくります。
- 産地交流や企画・イベントでのサポーターやボランティアなど、新しい活動方法を広げます。
- 配送センターやステーションパルなどの施設を整備し、活動の場として活用します。
- 『かながわMIRAIクラブ』メンバーなどに当組合の活動を発信し、担い手づくりにつなげます。

### 3. 食と農

- 新たな交流の仕組みづくりに取り組み、作り手と使い手を近づけます。
- 産地の魅力や商品の価値を伝える取り組みを強化します。また、小学校・幼稚園・保育園など、次世代を担う子どもたちが商品や産地を体験できる取り組みを強化します。
- 地域での生産と消費を大事にし、地産地消を広げるため、商品の開発に引き続き取り組みます。

### 4. くらし・福祉

- 配送センターや『ステーションパル』などの施設を整備し、地域の方が気軽に立ち寄れる場づくりをすすめます。
- SNSなども活用し、助け合いやボランティアなど、気軽に参加できる活動を増やします。
- パルシステムの供給、共済、福祉など全ての事業や活動において福祉の視点を貫いた運営を行い、「地域包括ケアシステム」のような公的事业や地域住民、団体などと連携・協働できる体制をめざします。
- 支援を必要としている生活困窮者などへ、品質や安全性に問題がないにもかかわらず廃棄されてしまう食糧を無償で提供するフードバンクの取り組みを通じて、食品ロス削減と相互扶助の社会づくりに貢献します。

### 5. 環境

- 自分が自然の一部であることに気づき、行動できるようになります。
- 学校や子どもが集う場所で環境教育を実施し、自然環境、環境保護の大切さに気づく取り組みをすすめます。
- プラスチックによる海洋汚染の現状などを学び、プラスチックを出さない取り組みを推進します。
- WEB、紙媒体、動画などを活用し、電力の選択肢として再生可能エネルギーの普及をめざすパルシステムの電力事業や環境活動を伝える取り組みを強化します。

## 6. 平和

- 協同組合や諸団体と連携した平和活動や、国際的な活動を行っているNGOと協力しながら社会的な課題の解決に取り組む国際活動など、当組合の「平和活動・国際活動の考え方」に基づいた取り組みを継続します。また、ホームページやSNSなどの活用したWEBツアーなど平和の継承への取り組みを継続します。
- 養護学校とセンターの交流による就労など、共生の社会づくりに貢献します。
- 憲法が私たちの暮らしと深くつながっていることをわかりやすく伝え、憲法への理解を広げます。
- SDGsカードゲームやWEBを活用した学習会など、気軽に参加できる学びの場づくりをすすめます。

## 7. 組織運営

- 地域単位で課題解決できる新しい運営体制づくりに着手します。
- 他者、他団体、他組織との連携を強化し、それぞれの強みを生かした事業連携をすすめます。
- さらなる効率化を図るなど、新たなチャレンジを支える財務基盤づくりをすすめます。
- 全ての職員が生き生きと働ける就労環境をめざします。また、協同組合を学ぶための研修を通じて、協同組合の意義を伝えられる人材を育成します。